

第4章 緑の将来像

4-1 基本方針の設定

(1) 将来像のテーマ

桑名市は木曾三川をはじめとする水辺の自然、市域を縁取る丘陵地や市街地に残る樹林地の自然、河川流域に広がる田園風景など、豊かな自然が印象的なまちです。また宿場町として栄えた市域には、街道や歴史を物語る神社仏閣が点在するなど、歴史のまちでもあります。

しかし、近年は都市化や少子高齢化の影響などにより、かつては人々の生活や生産等によって保たれていた人と自然との関係が希薄になったことから、樹林地（山林）や農地などでは荒廃が進んでいます。

このようなことから、良好な都市環境の形成には、これらの水と緑の豊かな自然や歴史的産物を活用するとともに、市民、事業者、行政が一体となって豊かな自然が与えてくれる恩恵を再認識しながら人と自然との関係を新しいスタイルで再構築し、桑名市の緑を創り、育て、質の高い緑を確保することが重要になります。

また、桑名市都市計画マスタープランにおいても、市民、事業者、行政が一体となって「水と緑と歴史が育む豊かな快適交流文化都市」をめざすことを将来像に設定し、公園緑地の充実、市内に残る貴重な緑地の保全や緑化活動の推進などを図ることにしています。

そこで、桑名市のめざすべき緑の将来像を次のように設定します。

桑名市の緑の将来像のテーマ

みんなで奏でる「水と緑と歴史」のトライアングル

～水と緑と歴史のハーモニー～



(2) 基本方針

①水と緑の保全

多度山など桑名市を代表する良好な自然環境、木曾三川や市街地を縁取る緑など、都市の骨格を形成する水と緑、市街地内に残る樹林地、農地、社寺林について、次の世代への継承に向けて、量の確保だけでなく、質的なものについても維持、向上ができるよう総合的な保全を図ります。

水と緑の保全

- ・シンボルとなる多度山等の自然環境の保全
- ・災害防止機能のある緑の保全
- ・都市の骨格で河川軸となる木曾三川と市街地を流れる中小河川の保全
- ・都市の骨格で市街地を縁取る樹林地の保全
- ・市街地に残る（点在する）樹林地の保全
- ・良好な自然景観を形成する農地の保全
- ・歴史的産物である社寺林等の保全

②水と緑・歴史文化の拠点づくり

市内外の人々が訪れ、集い、賑わう拠点である、駅前や国営木曾三川公園、九華公園や播磨中央公園などの大規模な公園、桑名市総合運動公園などのスポーツ・レクリエーション施設等を水と緑の拠点として整備し、適切な維持管理を図ります。

また、桑名市の歴史や風土が感じられる社寺林や旧街道のまち並み、ならびに遺跡を保全・活用し、歴史の拠点として整備を図ります。

水と緑・歴史文化の拠点づくり

- ・桑名駅（西桑名駅）の駅前広場の整備
- ・都市を代表する大規模公園の整備充実
- ・スポーツ・レクリエーション施設の整備充実
- ・社寺林、古木、まち並み、遺跡の保全

③水と緑のネットワークづくり

河川の水辺、ならびに水と緑の拠点や歴史の拠点の間を、遊歩道や緑道、街路樹等で連携させ、水と緑のネットワークを形成するとともに、各拠点の案内設備を充実します。

また、自然生物の生息場所や移動、休息場所となる緑の“帯”を形成し、生態系の維持に必要な環境の保全・創出を図ります。

水と緑のネットワークづくり

- ・河川沿いを利用した遊歩道の整備
- ・水と緑の拠点、歴史文化の拠点を結ぶ遊歩道、街路樹の整備
- ・道路整備に伴う街路樹の整備
- ・各拠点を案内する設備の充実
- ・樹林地の保全と新たな緑の創出による“点”の連なりからなる“帯”の形成